



城陽おひさまプロジェクト news

第58号 2024年1月21日 NPO法人市民共同発電をひろげる城陽の会

0774-55-4190 <http://jyoyonokai.sakura.ne.jp>

あけまして おめでとう ございます



城陽市寺田 水度神社にて

正月早々、能登半島に震度7の地震が発生しました。亡くなられた方々に心よりお悔み申し上げます。また、被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。そして、被災者救援に奮闘されている方々に敬意を表しますとともに、一日も早い復興を願ってやみません。志賀原発や柏崎刈羽原発が停止中だったので、さらなる大惨事にはいたりませんが、危ないことにはかわりません。地震列島に原発はいりません。

私たちは引き続き原発ゼロ、地球温暖化防止のため、再エネによる発電事業と省エネの普及を、市民共同ですすめる活動を強めてまいります。

新年にあたり、能登半島地震被災者救援と復興、会員の皆さまのご健勝、2050年CO2排出実質ゼロへの前進を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

NPO法人市民共同発電をひろげる城陽の会

理事長 古家野 辰也

4 回目の白熱電球とLED電球の無料交換会 12月9日 北部コミセン

100個の白熱電球等を94個のLED電球と交換

これまでの累計削減CO₂は5.5t（年推定値）

昨年12月9日（土）、北部コミュニティセンターを会場に第4回の白熱電球とLED電球無料交換会を開催しました。交換会は、予約段階では目標としていた100名を超えていましたが、当日は体調不良などで来られない方がおられましたので94名・94個の交換となりました。白熱電球は68個、蛍光灯は32個、合わせて100個（「白熱電球等」と言います）を回収することができました。

昨年2月の東部コミセン、一昨年の青谷コミセン及びその前年の文化パークでの交換会とこれまで4回の交換会を開催してきましたので、累計は405個（白熱電球等）を293個のLED電球と交換しています。今回と合わせると505個（白熱電球等）を387個のLED電球と交換したことになります。今回の交換では節電される電力量は12751kWh、削減できるCO₂は5.5t（いずれも推定値・年）となります。1回の交換会で2～3個の太陽光パネルを設置したのと同じCO₂削減等の効果がありますから、これまでの4回で4kWクラスのソーラーパネル約11台を設置したのと同程度となります。



回収された白熱電球・蛍光灯

体験型の交換会

今回の交換会も基本的な流れやシステムはこれまでと同じですが、新しい試みをいくつか取り入れました。

グループ分けはA～Cの3つへ

今回の交換会も青谷コミセンや東部コミセンでの経験を踏まえ事前受付制としました。昨年5月に新型コロナが五類移行になるなど感染状況の推移・会場の広さを生かしてA・B・Cの3グループでの交換とし、時間の短縮をはかりました。青谷コミセンでは5グループ・1時30分開始としていましたが、東部コミセンでは4グループとし、今回は3回となりました。グループ毎にLEDや省エネ、私たちの会の説明、その後の交換を含め30分の設定は変えていないので、開始時間を午後2時30分からとし、午後0時半ごろからの準備で開始を迎えることが出来ました。

手回し発電機で省エネを実感

LED電球の省エネ性能について、これまではパワーポイントを使つての”言葉”によるミニ講演会でしたが、今回は京都府温暖化防止活動推進センターのご協力を得て手回し発電機をお借りして白熱電球とLED電球のエネルギー量の違いを体感して頂きました。手回し発電機はこれまでもセンターからお借りして、机の上に置いておくと子どもたちがクルクル回してLED電球を灯らせたりプロペラを回転させたりしている人気のあるグッズでした。

今回は7人を一つのグループとして坐って頂き、最高5つのグループ35人で一斉に取り組みました。それぞれのグループでは7人で7台の発電機を順次廻していき、5～6人目でぼんやり灯り出して、7人目の方がまわしだすと明るく灯る白熱球に対して喚声が上がったりしました。そして1台の発電機を廻すだけで明るく輝くLED電球を体験して頂きました。つまり、7分の1の電力で済むこととなります。この体験で「省エネになることがよくわかった」や「これはガ

ッテンだ」など嬉しい感想が寄せられました。わずかではありますが省エネ（ネガワット）や再エネの理解が進んだのではないかと感じています。

このような体験型の講演は初めての取り組みなので、断線して点かない事例やちゃんと繋がっているのにつかない事例、この場合は廻す方向がバラバラだったためと分かりました。皆さんに



参加されたみなさんと机の上の発電機セット

時計回りです、とお願いしたら、ちゃんと灯りました。

また、全員が発電機のハンドルを持たれる前に廻し始めると、他の発電機がモーターになってしまいハンドルがゴトゴト動き出し、あわててスタッフが駆け付けるなどハプニングはイロイロとありました。準備段階で、点灯検査などスタッフは全員、配線の具合や仕組みを体験していましたので参加者のアクシデントに、それなりの対応ができたようです。

参加申込にQRコードを活用

これまで交換会の申込はハガキ・ファックス・e-mailとしていました。青谷コミセンの交換会では料金受取人払いのハガキを用意したこともありましたが。今回は申込方法に市民活動支援センターのご助力を受けQRコードも採用し、古川・久津川校区を中心にポスティングしたチラシとおひさまニュース（57号）に刷り込みました。初めての試みですのどの位の申込があるかと期待と不安を持っていましたが、申込総数の22%を占めました。ハガキが28%ですので多くの方が利用されたと感じています。来年度に交換会を行う場合にはQRコードは大いに検討する必要があるのではないかと思います。

交換会実施にあたっては昨年とほぼ同様の下記の要領で行いました。

- ①白熱電球を1個以上持参した人一人に付、1個のLED電球と無料で交換する。今回はお渡しするLED電球は60W相当のみとする。
- ②白熱電球等は、使用中の物でも切れているものでも交換するものとする。
- ③LED電球は26口金のものとする。などしました。

新型コロナ感染対策としてスタッフはマスクを着用し、参加者には着用の呼びかけを行うにとどめるなど5類移行を踏まえて少し緩和をしました。

今回も市の後援を頂き、広報「じょうよう」紙上で市民に知らせて頂きました、広報で知ったと言う申し込みは45%ありました。また、てくのハウスMAKINO城陽店・星和電機(株)には、チラシを置く等のご協力をいただきました。

参加された方々には、やってよかった省エネ冊子 Part2・京都0円ソーラープラットフォームのチラシ・太陽光発電のギモン解決！よくある質問15選・LEDおすすめのわけ（ミニ講演資料）・本会リーフをお渡ししています。



本会のQRコードです。簡単にホームページを閲覧することができます。
NPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会
連絡先 0774-55-4190 e-mail bnkmf858@kcn.jp

COP28(2023年12月 アラブ首長国連邦・ドバイ)

再エネ・省エネで国際社会が一致、化石燃料からの脱却を合意

12月13日に閉幕した国連気候変動枠組み条約第28回締結国会議(COP28)では再エネ3倍化、省エネ2倍に各国政府は貢献するようにとの表現となりました。国際社会が再エネ3倍・省エネ2倍に貢献すべきで一致したと言えます。

その一方で日本政府などが化石燃料を使い続ける・再エネなどは難しいとの態度をとり世界の流れから取り残されていることが明らかになりました。脱化石燃料の取り組みに消極的だとして「化石賞」を受賞しました。日本の受賞はCOP25から4年連続です。

原発3倍化に米国や日本など23ヶ国が賛同したとされていますが、伊与田昌慶さん(国際環境NGO・350.org)は「原発3倍化はCOP外のことで賛同国は23ヶ国にとどまっています。風前の灯火の原発があたかも盛り上がっているかのような演出があるのではないか」と語っています。

日本政府は化石燃料への投融資をやめ、地域が主導する再エネ転換にお金を



振り向け、脱炭素に貢献すべきです。また、COP28で「気候変動の悪影響に伴う「損失と損害」(ロス&ダメージ)基金の運用への合意がなされました。

COP28のメンバーUAE・ドバイ 国連広報センターhpより

パネルは壊れていても発電します、注意して下さい

能登半島地震の様子を見ておられて、太陽光パネルが壊れたらどうなるのだろうと思われた方があるかもしれません。経産省X(旧ツイッター)は「太陽光パネルは、破損した場合でも、日の光が当たると発電をする可能性があるため、むやみに近づかないようにご注意ください。また、復旧作業にあられる際も十分ご留意下さい。」としています。参考にして下さい。

e-mailアドレスをお持ちの方へ

現在、おひさまニュースは会員の方すべてに紙ベースでお渡ししています。同時にホームページにアップして会員外の方も見る事が出来るようにしています。紙のニュースでは印刷の関係で写真は白黒になりますが、ホームページ上のニュースはカラーで掲載しています。

会員の方も自由にホームページは見る事が出来ますが、ニュース発行時にe-mailアドレスにニュースを添付してお送りすることにより、発行と同時に見る事が出来るようになり、速報性が増し、カラーの紙面を見て頂けるようになります。

ご希望の方は副理事長・杉浦のアドレス(ksugi04@yahoo.co.jp)にご連絡下さい。ご連絡頂いた以後の「おひさまニュース」はe-mailに添付ファイルとしてお届けします。